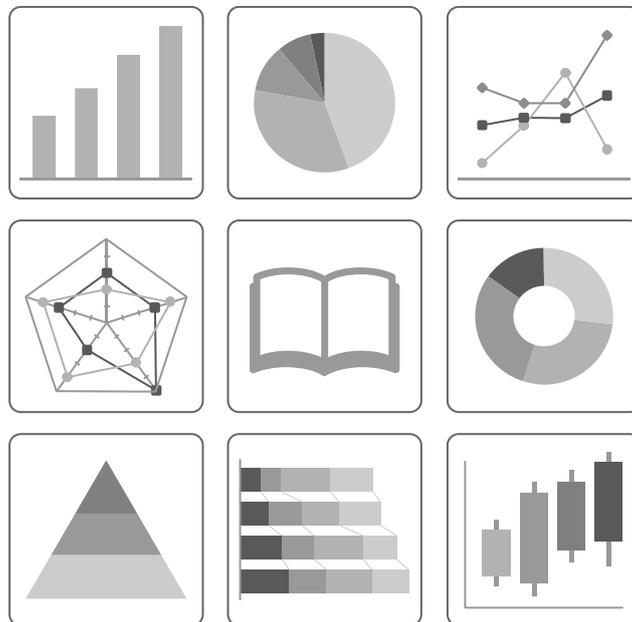


塩竈市  
子どもの生活に関する実態調査  
調査結果報告書  
親子調査 抜粋版



令和 3 年 3 月

塩 竈 市



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
7	本調査における相対的貧困層の定義	2
II	調査結果	4
1	世帯の生活状況	4
2	子どもの生活状況	11
3	相談先	19
4	今後の支援	27

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

昨今、子どもの貧困が社会的問題となっており、厚生労働省調査では、17歳以下の子どもの相対的貧困率は13.5%、子どもの7人に1人が貧困の状況におかれています。また、経済的理由により就学援助を受けている小学生・中学生が、全国で約137万人にのぼっている（2018年、文部科学省調べ）ことから、子どもの貧困への対策が強く求められています。

そのような社会背景のもと、令和元年6月には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が改正され、子どもの貧困対策に関する計画策定が市町村の努力義務とされました。

本市でも、子どもの貧困対策のための施策を行っていくため、本調査を通じて子どもを取り巻いている現状を把握し、子どもの貧困対策のための基礎資料を得ることを目的として、本調査を実施したものです。

## 2 調査対象

保護者調査：市内の満18歳未満の子どもを持つ保護者および市内の小学5年生児童  
または中学2年生生徒をもつ保護者（無作為抽出1,000人）

小学生・中学生調査：市内の小学5年生児童及び中学2年生生徒

## 3 調査期間

令和2年11月25日から令和2年12月9日

## 4 調査方法

0～18歳未満の子どもの保護者：郵送による配布・回収

小学5年生保護者、中学2年生保護者：学校を通じた直接配布、回収

小学5年生児童、中学2年生生徒：同上

## 5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
保護者調査（0～18歳）	1,000通	555通	55.5%
保護者調査（小5・中2）	789通	649通	82.3%
小学生・中学生調査	789通	683通	86.6%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

## 7 本調査における相対的貧困層の定義

### 1. 相対的貧困世帯の定義

等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分を相対的貧困水準（“貧困線”）とする国民生活基礎調査の定義に基づき、世帯収入が“貧困線”以下の世帯を相対的貧困世帯と定義します。

### 2. 本調査分析における生活困窮世帯の定義

本調査においては、世帯年収についての質問（保護者問12）の回答より“貧困線”を算出し（本調査では132.5万円）、“貧困線”以下の世帯年収の世帯を「貧困世帯」と定義しています。

世帯人員	可処分所得 <sup>※1</sup> による貧困線	貧困線未満の世帯	国の基準 <sup>※2</sup> による貧困線	貧困線未満の世帯
1人	132.585万円	0世帯	127.000万円	0世帯
2人	187.504万円	21世帯	179.605万円	21世帯
3人	229.644万円	47世帯	219.970万円	28世帯
4人	265.170万円	31世帯	254.000万円	31世帯
5人	296.469万円	25世帯	283.981万円	25世帯
6人	324.766万円	10世帯	311.085万円	10世帯
7人	350.787万円	7世帯	336.010万円	7世帯
8人	375.007万円	0世帯	359.210万円	0世帯
9人	397.755万円	1世帯	381.000万円	1世帯
<b>世帯数</b>				
1,117世帯	-	142世帯	-	123世帯
	-	12.7%	-	11.0%

※1：今回のアンケート調査結果から等価可処分所得を算出。等価可処分所得の中央値の半分を貧困線として算出。算出した貧困線に世帯人員のルートを掛けて、各世帯人員の貧困線を算出。

※2：平成30年（2018年）の国民生活基礎調査の貧困線。貧困線に世帯人員のルートを掛けて、各世帯人員の貧困線を算出。

## 2-1. 貧困線の算出

本調査においては世帯の所得額については、回答者の負担感等を考慮し、手取り収入を50万円の幅を持たせた選択肢で回答を求めました。そのため、国の貧困線の算出方法で用いる「等価可処分所得」の中央値には、選択肢の上限値と下限値の平均値を世帯人員の平方根で割って調整した値を当てはめています。

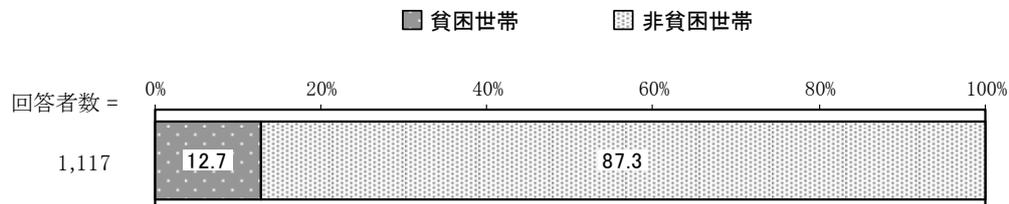
- ・(例) 世帯所得が「500～550万円」で世帯人員が5人の場合、世帯所得を525万円として算出します。

$$\text{(当該世帯の“等価可処分所得”)} = (525 \text{万円}) \div (\sqrt{5}) \doteq (234.8 \text{万円})$$

## II 調査結果

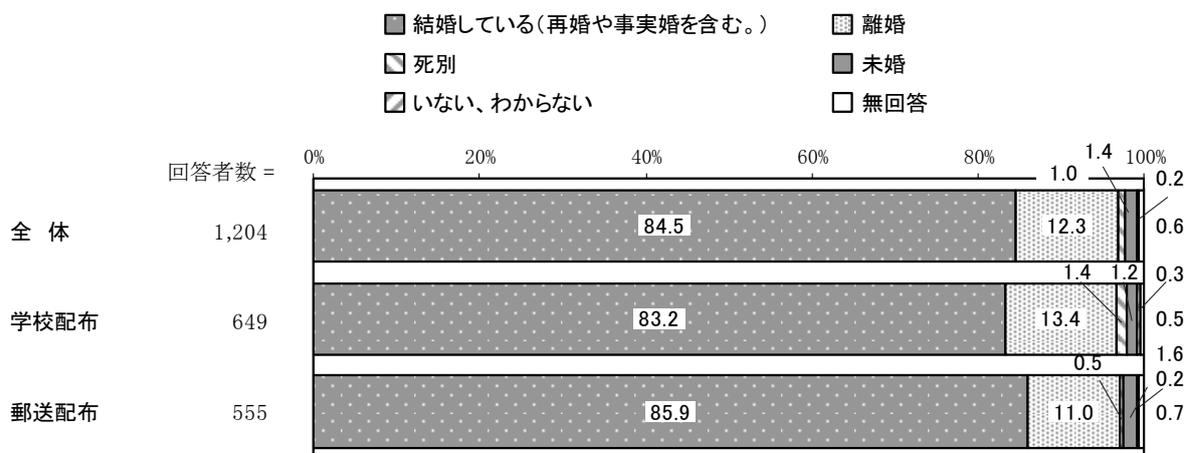
### 1 世帯の生活状況

「貧困世帯」の割合が12.7%、「非貧困世帯」の割合が87.3%となっています。



【保護者】問7 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

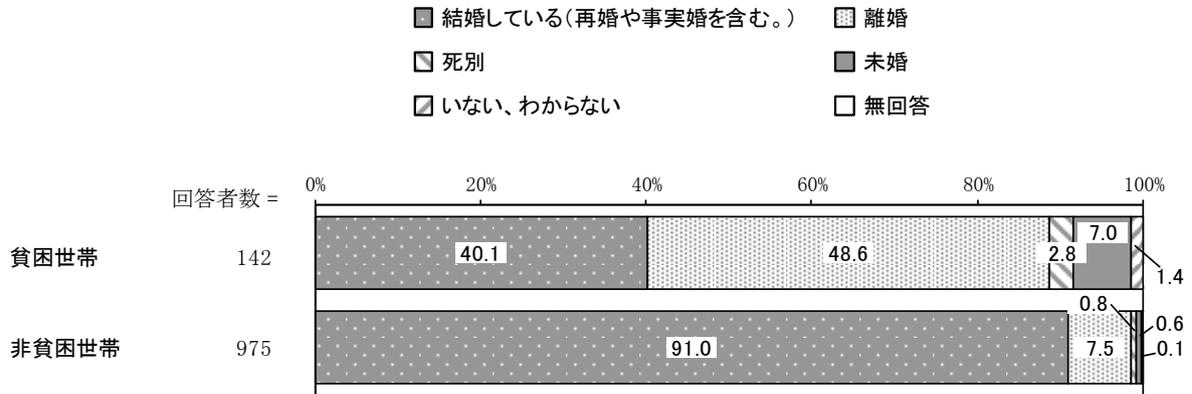
全体では、「結婚している(再婚や事実婚を含む。)」の割合が84.5%と最も高く、次いで「離婚」の割合が12.3%となっています。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

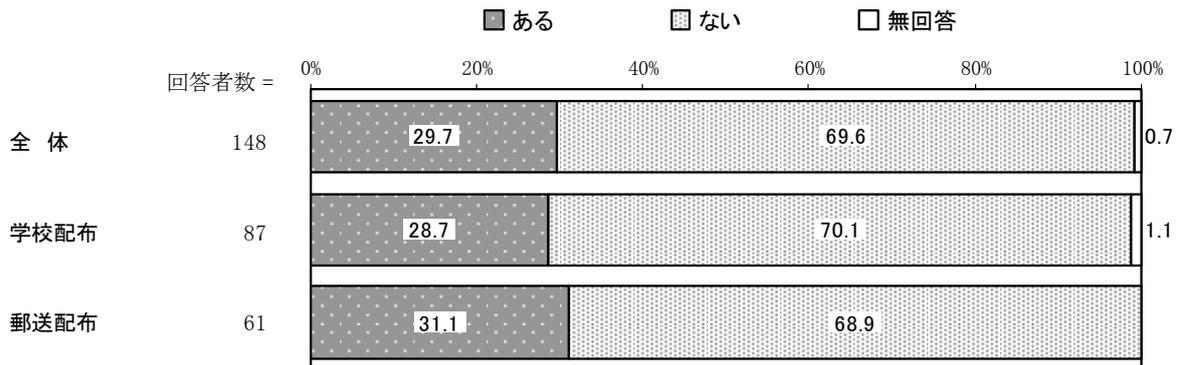
**【貧困線別】**

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「離婚」「未婚」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」の割合が高くなっています。



**【保護者】問7-1 養育費の受け取りはありますか。(あてはまるもの1つに○)**

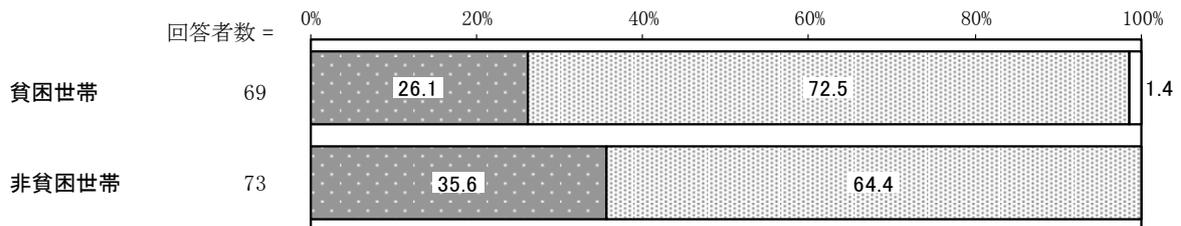
全体では、「ある」の割合が29.7%、「ない」の割合が69.6%となっています。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

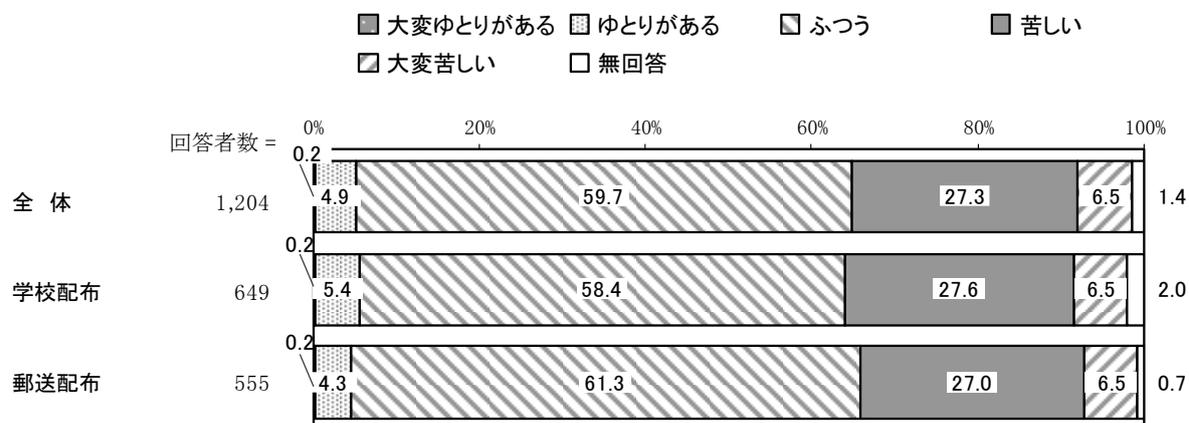
**【貧困線別】**

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「ない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「ある」の割合が高くなっています。



**【保護者】問 11 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。**  
**(あてはまるもの1つに○)**

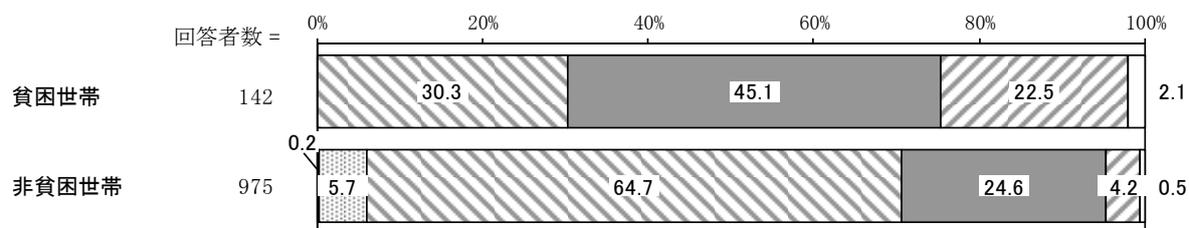
全体では、「大変ゆとりがある」と「ゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が5.1%、「ふつう」の割合が59.7%、「苦しい」と「大変苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が33.8%となっています。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

**【貧困線別】**

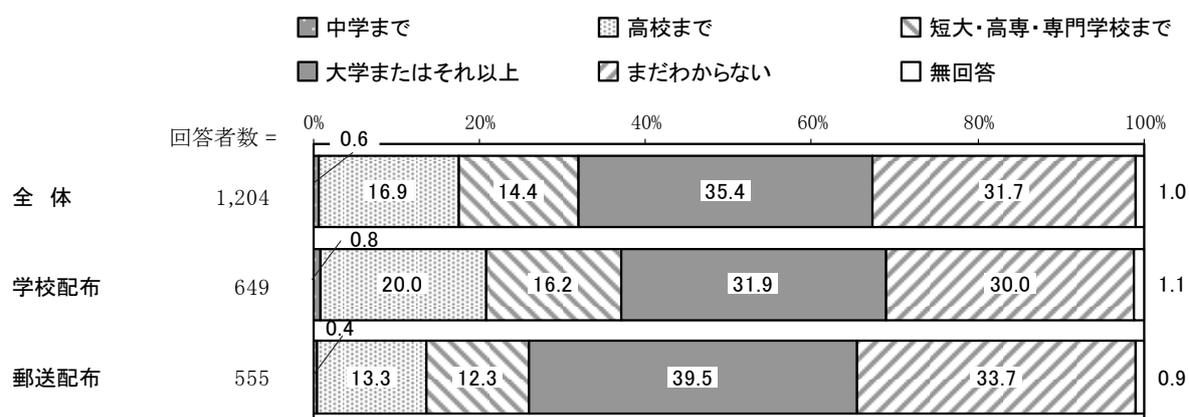
貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“苦しい”の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“ゆとりがある”「ふつう」の割合が高くなっています。



**【保護者】問 16 お子さんは将来、どの段階まで進学すると思いますか。**  
(あてはまるもの1つに○)

全体では、「大学またはそれ以上」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「まだわからない」の割合が 31.7%、「高校まで」の割合が 16.9%となっています。

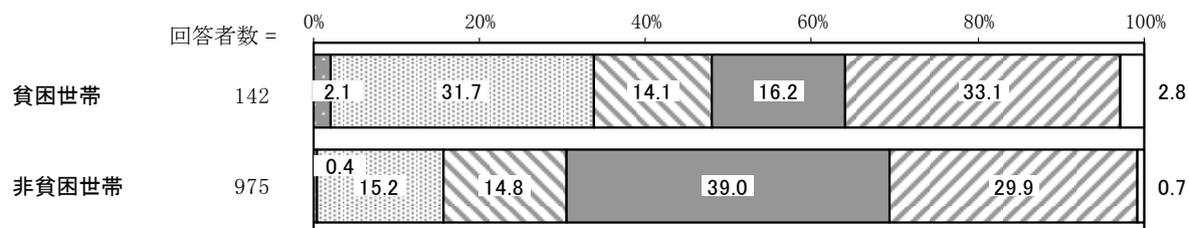
学校配布と郵送配布を比較すると、郵送配布に比べ、学校配布で「高校まで」の割合が高くなっています。また、学校配布に比べ、郵送配布で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

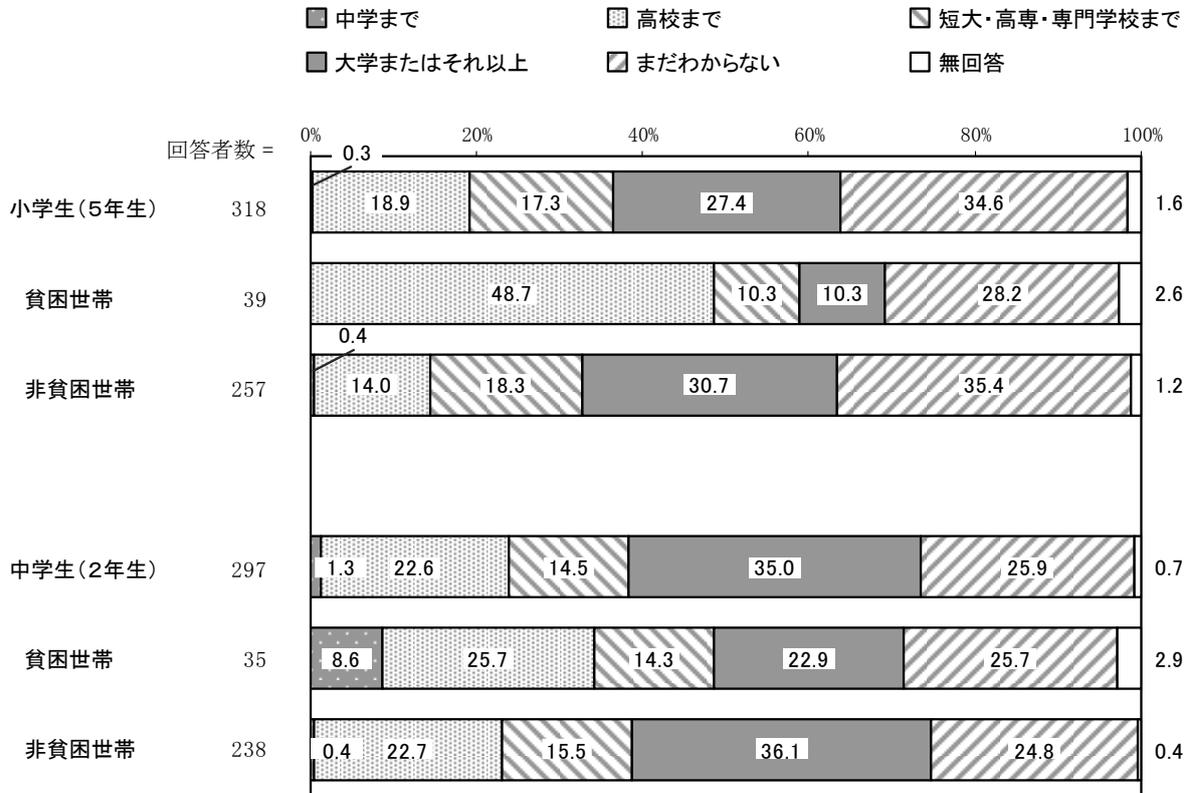
**【貧困線別】**

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「高校まで」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



## 【子どもの学年別】

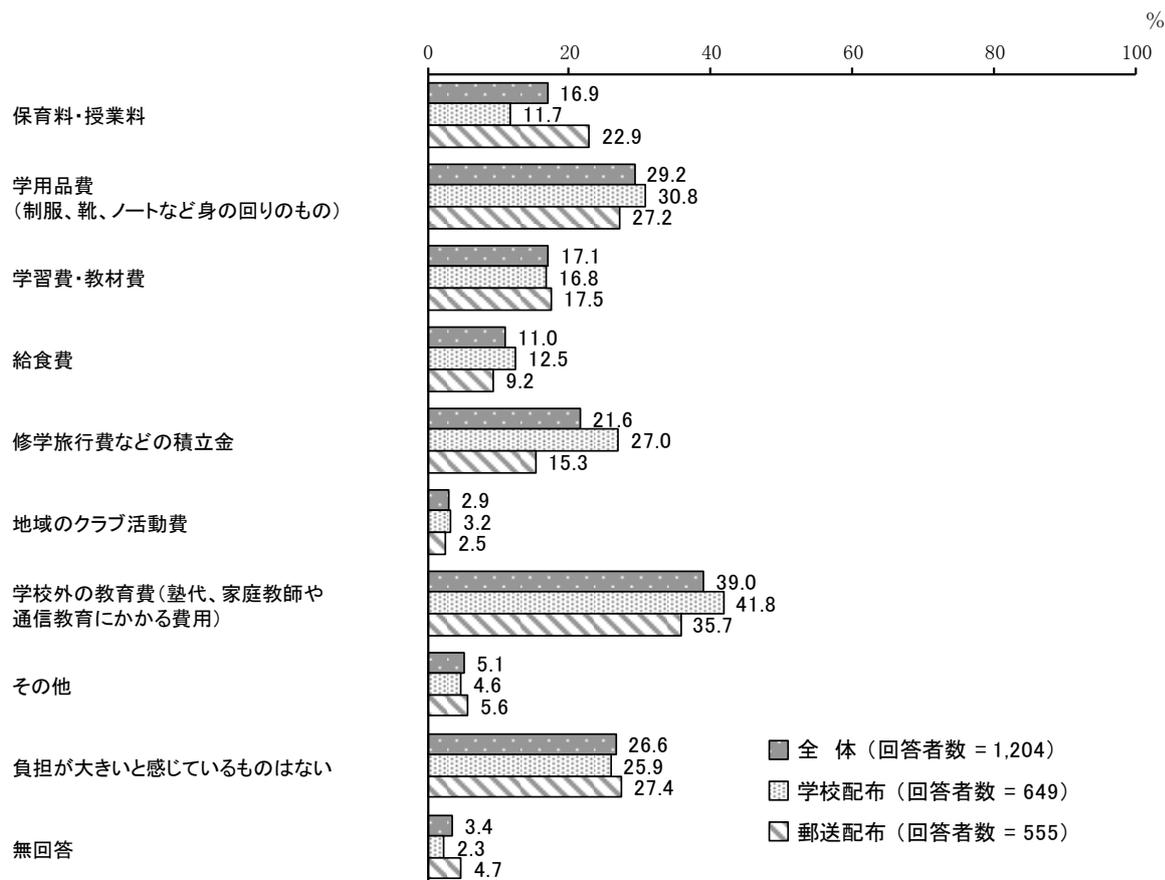
子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「高校まで」の割合が高くなっています。また、中学生の貧困世帯で「中学まで」の割合が高くなっています。



**【保護者】問 18 お子さんの教育にかかる経費について、負担が大きいと感じているものはありますか。(1～8については、あてはまるものすべてに○)**

全体では、「学校外の教育費（塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用）」の割合が 39.0%と最も高く、ついで「学用品費（制服、靴、ノートなど身の回りのもの）」の割合が 29.2%、「負担が大きいと感じているものはない」の割合が 26.6%となっています。

学校配布と郵送配布を比較すると、郵送配布に比べ、学校配布で「修学旅行費などの積立金」「学校外の教育費（塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用）」の割合が高くなっています。また、学校配布に比べ、郵送配布で「保育料・授業料」の割合が高くなっています。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

### 【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「保育料・授業料」「学用品費（制服、靴、ノートなど身の回りのもの）」「学習費・教材費」「給食費」「修学旅行費などの積立金」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「学校外の教育費（塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用）」「負担が大きいと感じているものはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	保育料・授業料	学用品費(制服、靴、ノートなど身の回りのもの)	学習費・教材費	給食費	修学旅行費などの積立金	地域のクラブ活動費	学校外の教育費(塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用)	その他	負担が大きいと感じているものはない	無回答
貧困世帯	142	26.1	50.7	34.5	19.7	45.1	6.3	32.4	9.2	18.3	2.1
非貧困世帯	975	15.8	26.1	14.7	9.3	18.3	2.6	40.1	4.7	28.6	2.5

### 【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、非貧困世帯に比べ、小学生、中学生の貧困世帯で「保育料・授業料」「給食費」の割合が高くなっています。また、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも貧困世帯で、「学用品費（制服、靴、ノートなど身の回りのもの）」「学習費・教材費」「修学旅行費などの積立金」の割合が高くなっています。

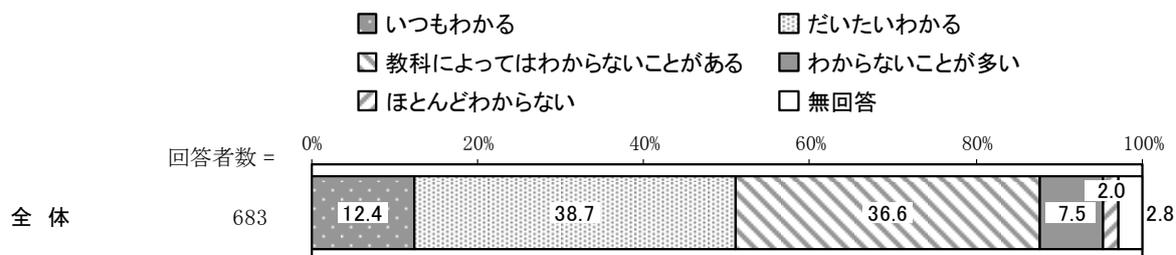
単位：％

区分	回答者数(件)	保育料・授業料	学用品費(制服、靴、ノートなど身の回りのもの)	学習費・教材費	給食費	修学旅行費などの積立金	地域のクラブ活動費	学校外の教育費(塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用)	その他	負担が大きいと感じているものはない	無回答
小学生(5年生)	318	11.6	28.3	15.4	12.9	20.8	3.8	32.7	5.7	32.7	2.5
貧困世帯	39	28.2	56.4	43.6	25.6	51.3	7.7	23.1	15.4	10.3	—
非貧困世帯	257	9.7	24.1	11.7	10.9	16.7	3.1	34.2	3.9	37.4	1.2
中学生(2年生)	297	10.4	34.0	18.5	11.8	34.0	2.0	50.2	4.0	18.5	2.4
貧困世帯	35	31.4	54.3	31.4	28.6	54.3	2.9	40.0	—	14.3	2.9
非貧困世帯	238	7.6	31.9	17.2	9.2	31.9	2.1	52.1	5.0	18.5	1.7
0～18歳未満	555	22.9	27.2	17.5	9.2	15.3	2.5	35.7	5.6	27.4	4.7
貧困世帯	65	21.5	44.6	30.8	10.8	36.9	6.2	33.8	10.8	26.2	3.1
非貧困世帯	452	23.0	24.1	15.3	8.2	11.9	2.2	36.3	5.3	29.0	3.8

## 2 子どもの生活状況

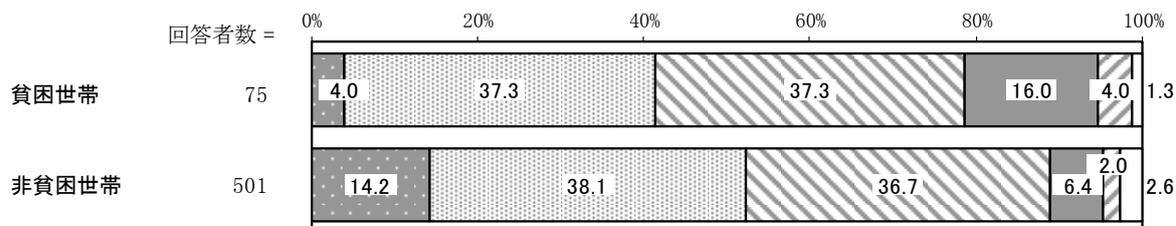
【児童生徒】問5 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。  
(あてはまるもの1つに○)

全体では、「いつもわかる」と「だいたいわかる」をあわせた“わかる”の割合が51.1%、「教科によってはわからないことがある」の割合が36.6%、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」をあわせた“わからない”の割合が9.5%となっています。



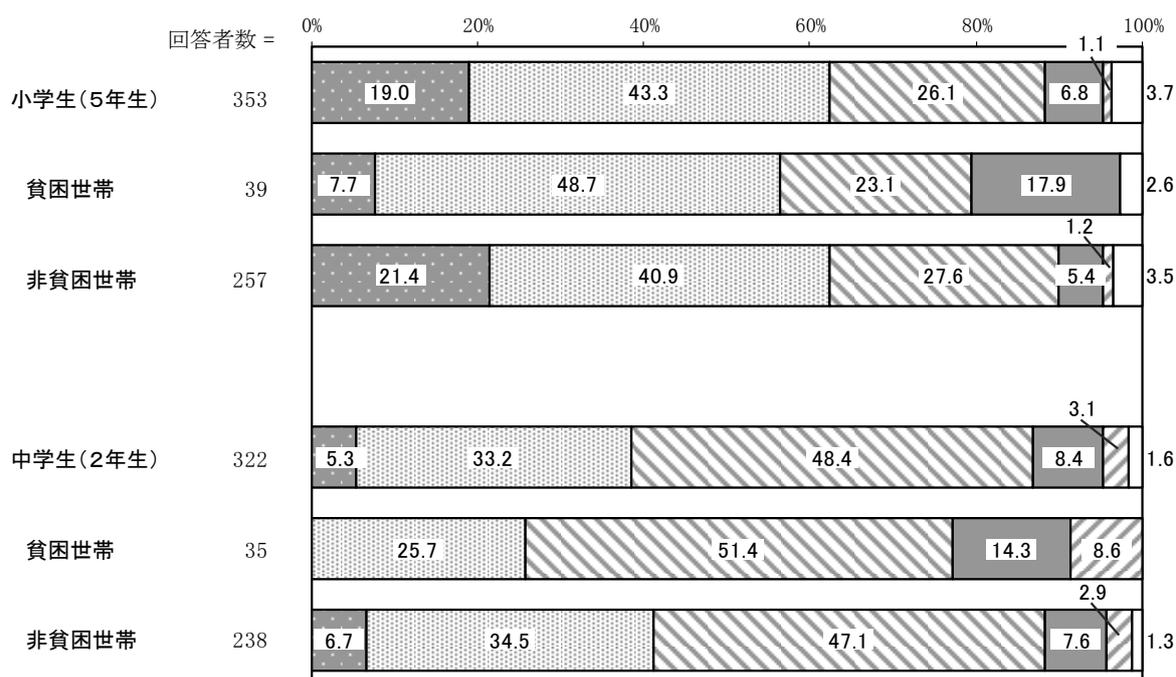
### 【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「わからないことが多い」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「いつもわかる」の割合が高くなっています。



### 【子どもの学年別】

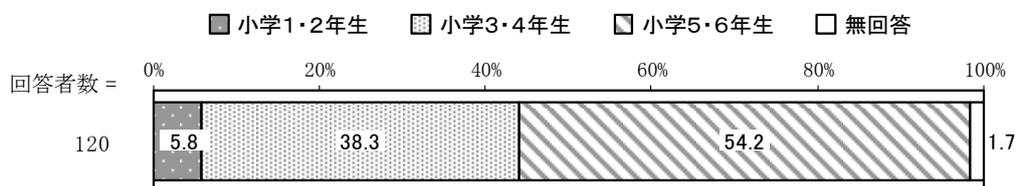
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生、中学生ともに貧困世帯で“わからない”の割合が高くなっています。



【児童生徒】問5-1 いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。

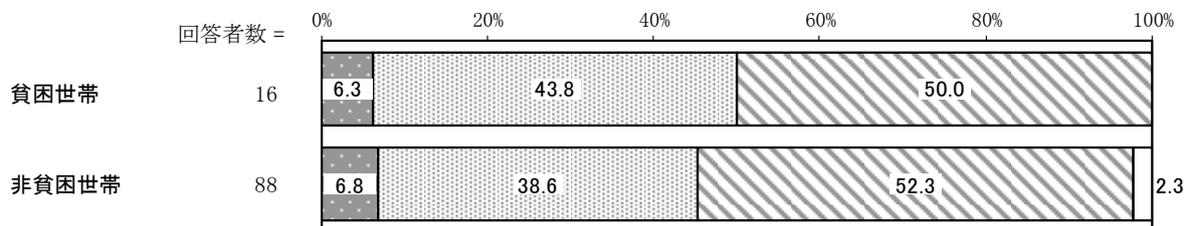
①小学生

「小学5・6年生」の割合が54.2%と最も高く、次いで「小学3・4年生」の割合が38.3%となっています。



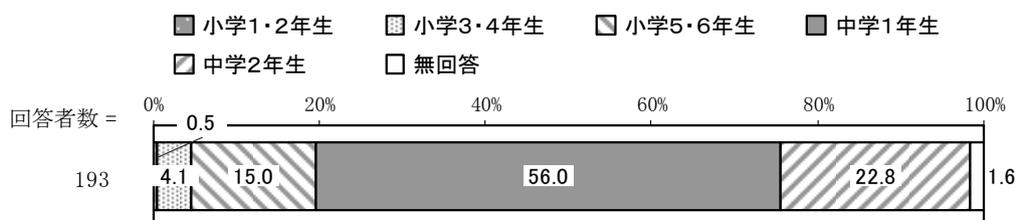
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「小学3・4年生」の割合が高くなっています。



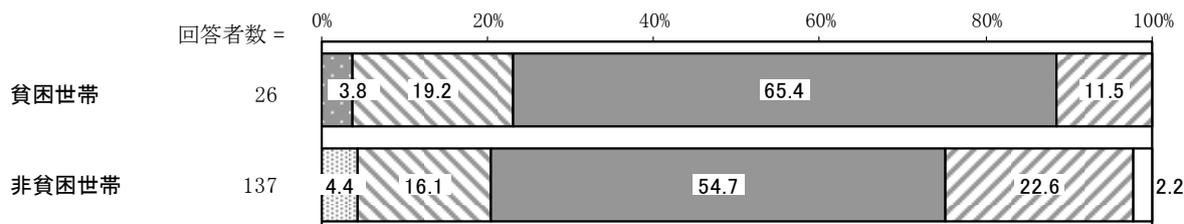
②中学生

「中学1年生」の割合が56.0%と最も高く、次いで「中学2年生」の割合が22.8%、「小学5・6年生」の割合が15.0%となっています。



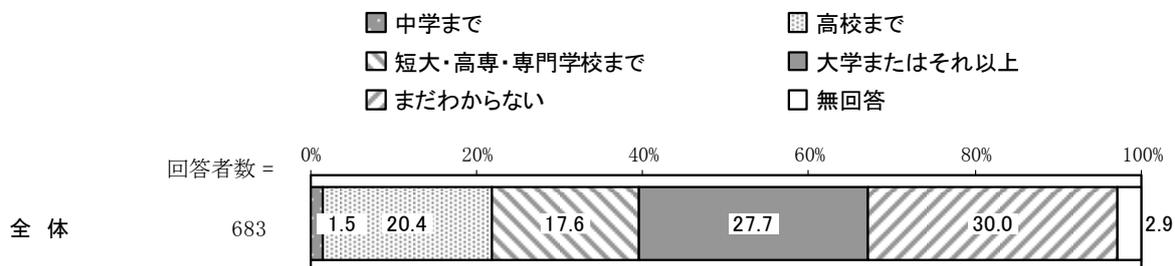
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「中学1年生」の割合が高く、「中学2年生」の割合が低くなっています。



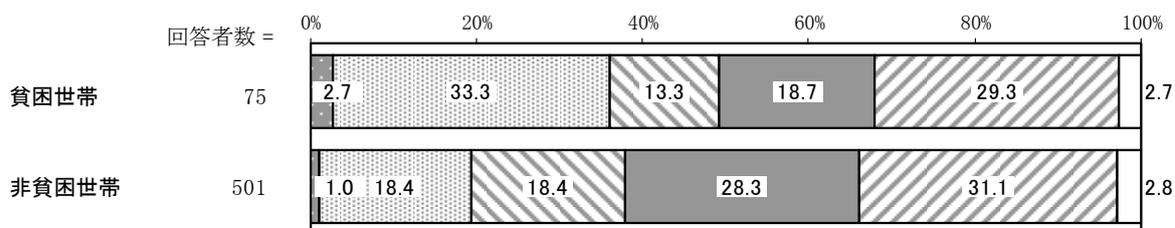
**【児童生徒】問6 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。**  
(あてはまるもの1つに○)

全体では、「まだわからない」の割合が30.0%と最も高く、次いで「大学またはそれ以上」の割合が27.7%、「高校まで」の割合が20.4%となっています。



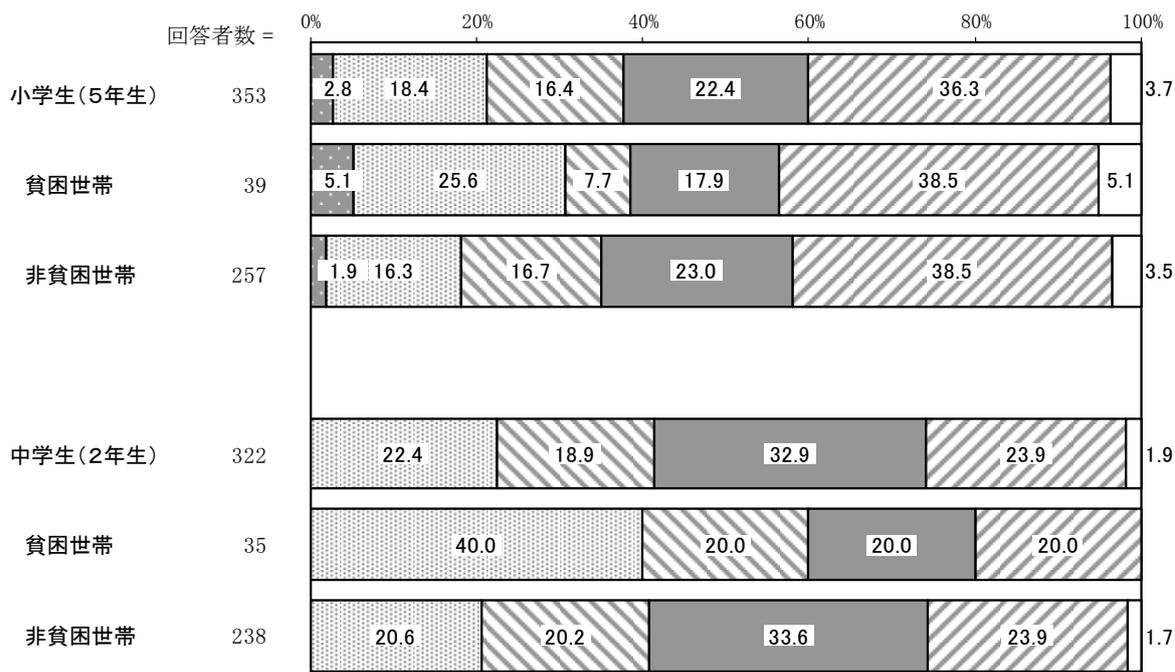
**【貧困線別】**

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「高校まで」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「短大・高専・専門学校まで」「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



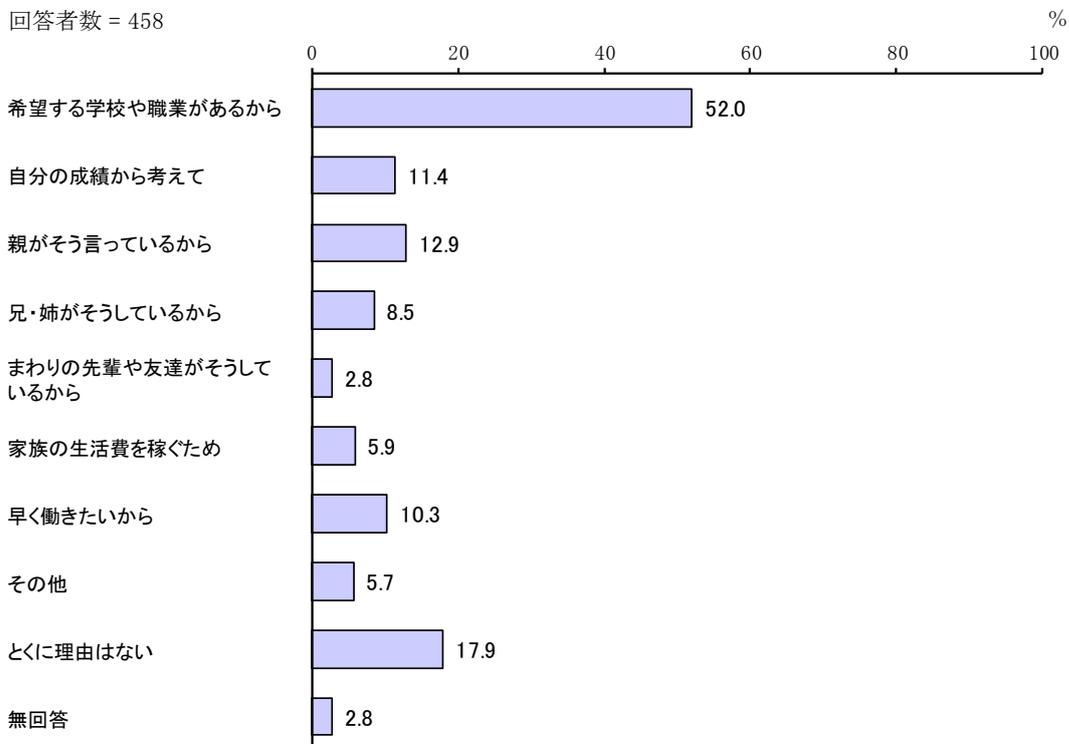
**【子どもの学年別】**

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「高校まで」の割合が高く、「大学またはそれ以上」の割合が低くなっています。



【児童生徒】問6-1 その理由を教えてください。  
(1～8については、あてはまるものすべてに○)

全体では、「希望する学校や職業があるから」の割合が52.0%と最も高く、次いで「とくに理由はない」の割合が17.9%、「親がそう言っているから」の割合が12.9%となっています。



### 【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「家族の生活費を稼ぐため」「早く働きたいから」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「希望する学校や職業があるから」「親がそう言っているから」「兄・姉がそうしているから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家族の生活費を稼ぐため	早く働きたいから	その他	とくに理由はない	無回答
貧困世帯	51	47.1	9.8	3.9	3.9	2.0	9.8	17.6	—	19.6	9.8
非貧困世帯	331	52.9	11.2	13.3	10.3	2.7	4.8	8.8	6.0	17.8	2.4

### 【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、中学生で、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「希望する学校や職業があるから」の割合が低く、「早く働きたいから」の割合が高くなっています。

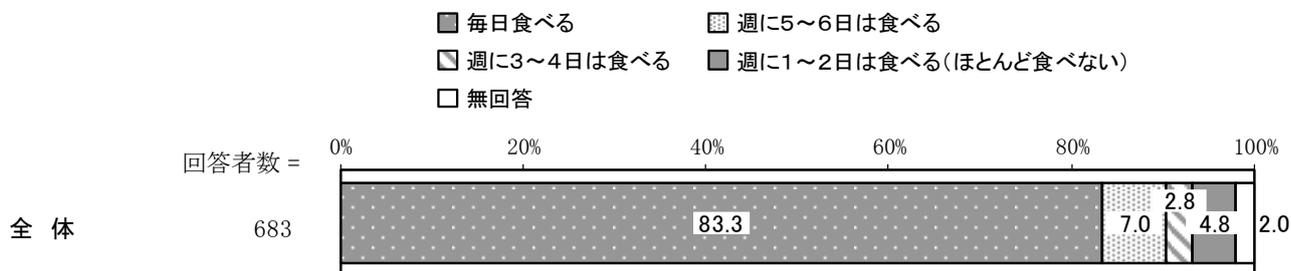
単位：％

区分	回答者数(件)	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家族の生活費を稼ぐため	早く働きたいから	その他	とくに理由はない	無回答
小学生(5年生)	212	51.9	11.3	8.5	7.5	0.9	6.1	11.8	3.8	16.5	3.3
貧困世帯	22	50.0	9.1	—	9.1	—	9.1	13.6	—	13.6	18.2
非貧困世帯	149	51.7	11.4	8.7	8.7	0.7	5.4	10.1	4.0	16.8	2.0
中学生(2年生)	239	52.7	11.3	16.7	8.8	4.6	5.9	8.8	7.1	19.7	2.5
貧困世帯	28	46.4	10.7	7.1	—	3.6	10.7	17.9	—	25.0	3.6
非貧困世帯	177	54.8	10.7	16.9	10.7	4.5	4.5	7.9	7.3	19.2	2.8

**【児童生徒】問8 あなたは朝ごはんをいつも食べていますか。  
(あてはまるもの1つに○)**

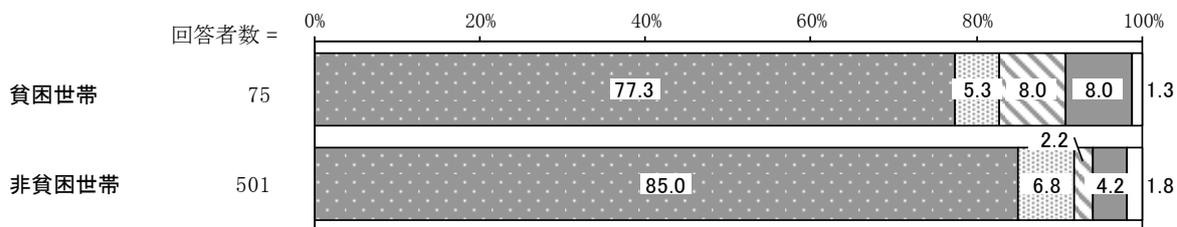
全体では、「毎日食べる」の割合が83.3%と最も高くなっています。

また、「週に5～6日は食べる」「週に3～4日は食べる」「週に1～2日は食べる(ほとんど食べない)」をあわせた“朝食を欠食する人”の割合が、14.6%となっています。



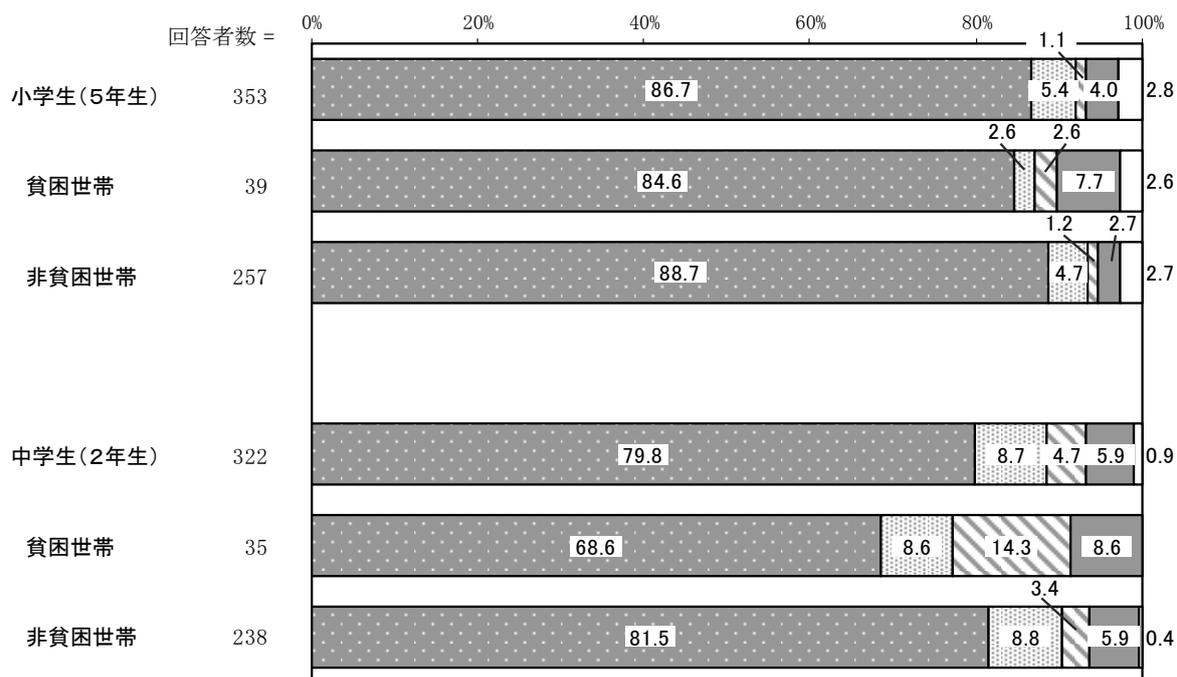
**【貧困線別】**

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「週に3～4日は食べる」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「毎日食べる」の割合が高くなっています。



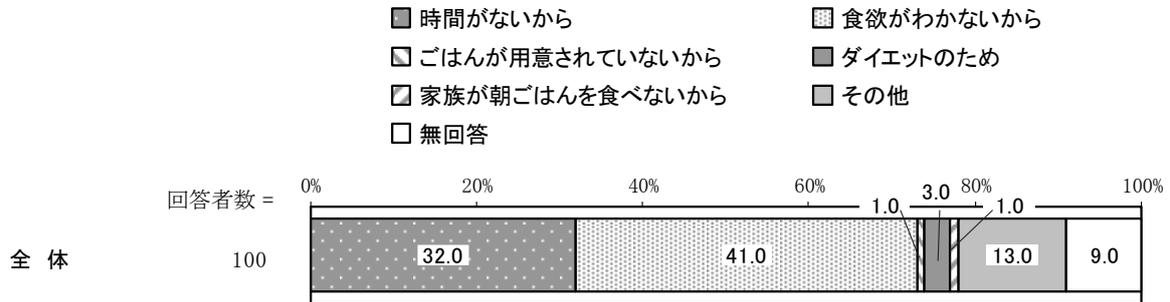
**【子どもの学年別】**

子どもの学年別で見ると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「毎日食べる」の割合が低く、「週に3～4日は食べる」の割合が高くなっています。



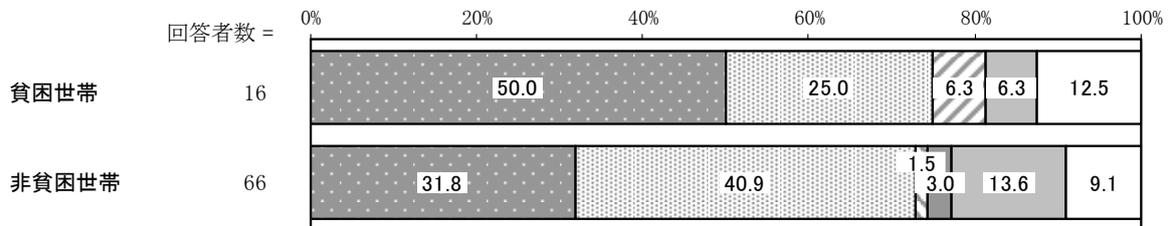
**【児童生徒】問8-1 毎日朝ごはんを食べない最も大きな理由はなんですか。**

全体では、「食欲がわからないから」の割合が41.0%と最も高く、次いで「時間がないから」の割合が32.0%となっています。



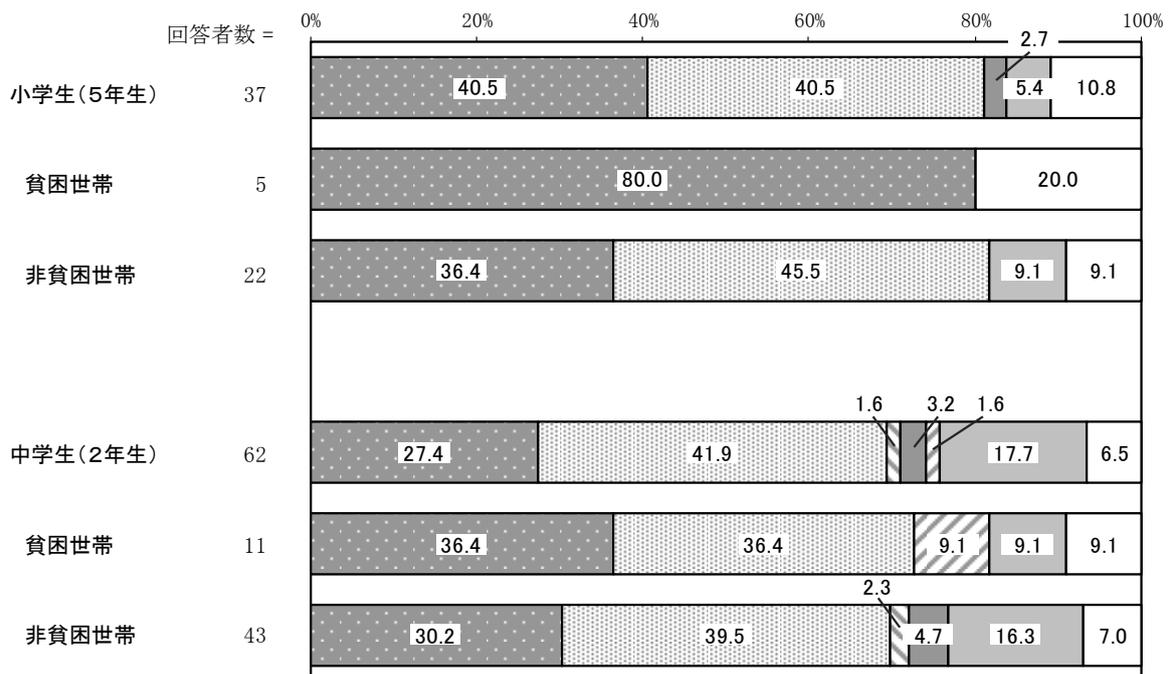
**【貧困線別】**

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「時間がないから」「家族が朝ごはんを食べないから」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「食欲がわからないから」の割合が高くなっています。



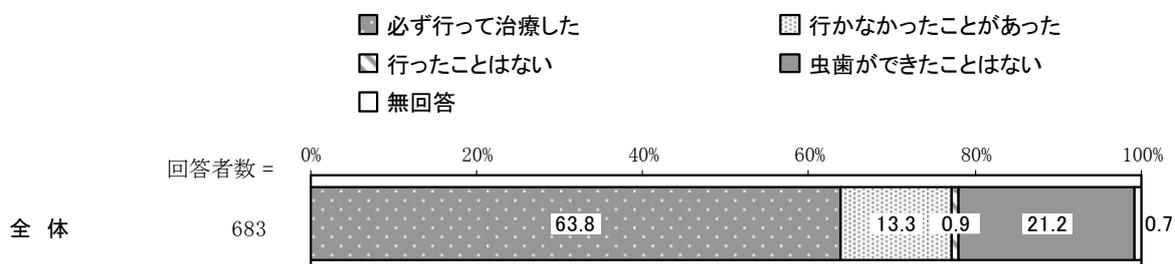
**【子どもの学年別】**

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の非貧困世帯で「食欲がわからないから」の割合が高くなっています。また、中学生の貧困世帯で「家族が朝ごはんを食べないから」の割合が高くなっています。



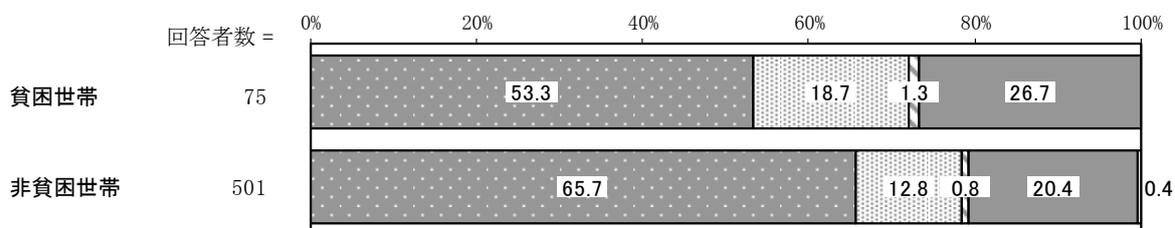
**【児童生徒】問 14 あなたは、今まで虫歯ができたとき、歯医者に行きましたか。  
(あてはまるもの1つに○)**

全体では、「必ず行って治療した」の割合が63.8%と最も高く、次いで「虫歯ができたことはない」の割合が21.2%、「行かなかったことがあった」の割合が13.3%となっています。



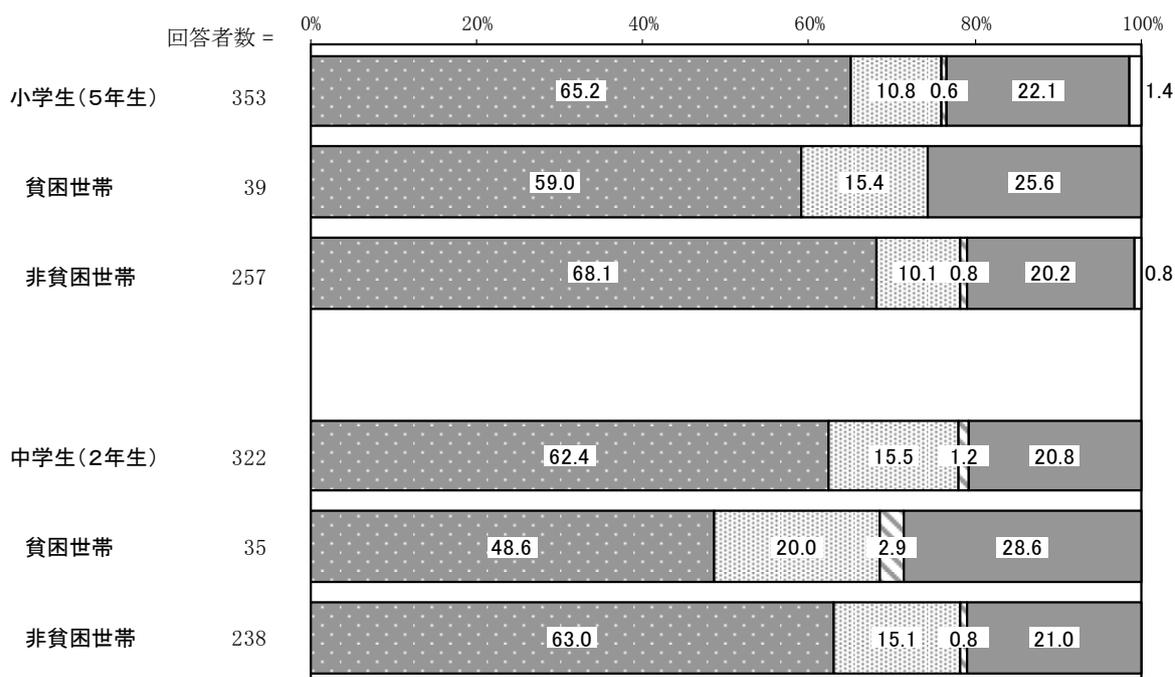
**【貧困線別】**

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「行かなかったことがあった」「虫歯ができたことはない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「必ず行って治療した」の割合が高くなっています。



**【子どもの学年別】**

子どもの学年別で見ると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「行かなかったことがあった」の割合が高くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「必ず行って治療した」の割合が高くなっています。

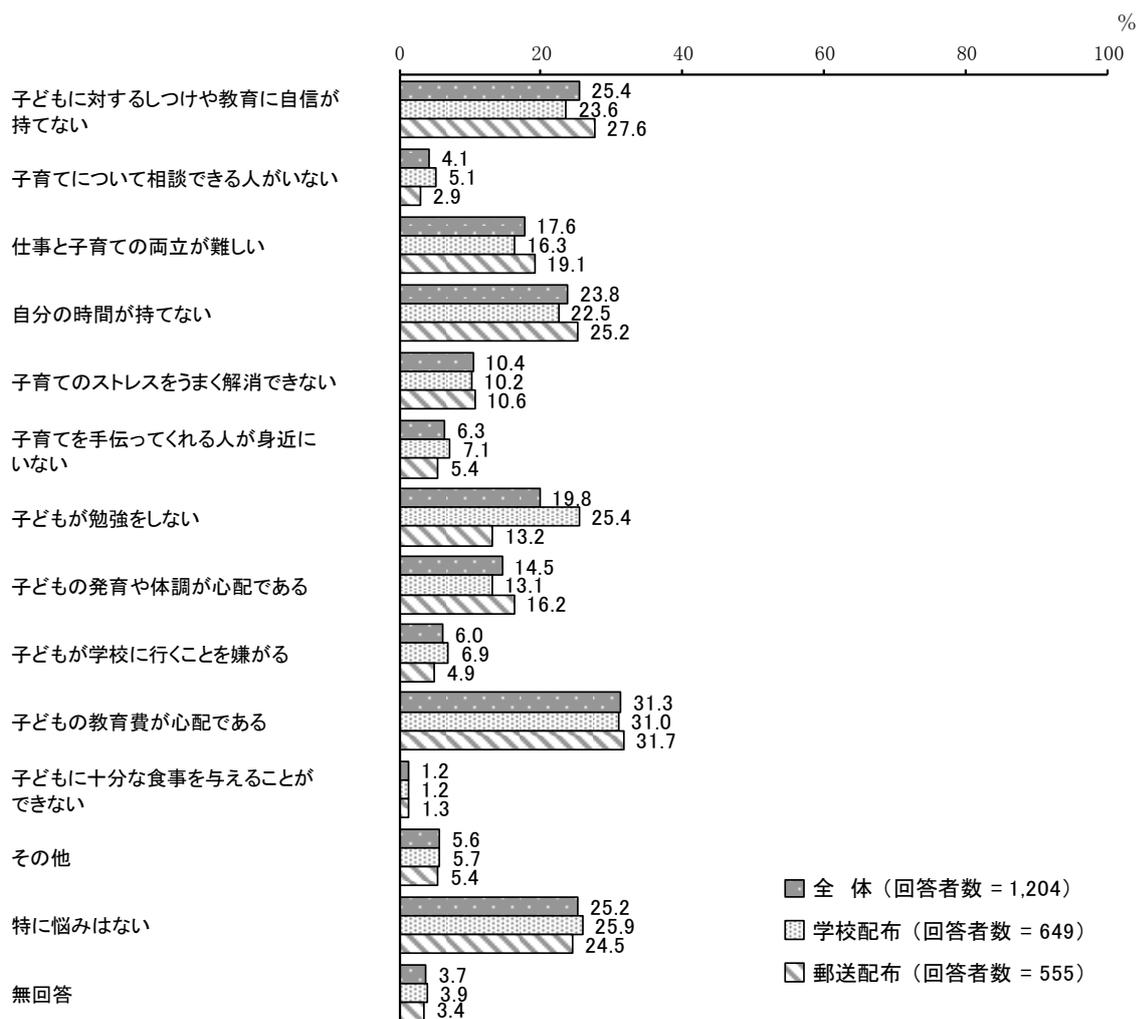


### 3 相談先

【保護者】問 22 お子さんや子育てについて、現在悩んでいることはありますか。  
 (1～12については、あてはまるものすべてに○)

全体では、「子どもの教育費が心配である」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」の割合が 25.4%、「特に悩みはない」の割合が 25.2%となっています。

学校配布と郵送配布を比較すると、郵送配布に比べ、学校配布で「子どもが勉強をしない」の割合が高くなっています。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

### 【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」「仕事と子育ての両立が難しい」「自分の時間が持てない」「子育てのストレスをうまく解消できない」「子育てを手伝ってくれる人が身近にいない」「子どもが勉強をしない」「子どもが学校に行くことを嫌がる」「子どもの教育費が心配である」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「特に悩みはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子育てについて相談できる人がいない	仕事と子育ての両立が難しい	自分の時間が持てない	子育てのストレスをうまく解消できない	子育てを手伝ってくれる人が身近にいない	子どもが勉強をしない	子どもの発育や体調が心配である	子どもが学校に行くことを嫌がる	子どもの教育費が心配である	子どもに十分な食事を与えることができない	その他	特に悩みはない	無回答
貧困世帯	142	33.1	5.6	25.4	33.1	17.6	11.3	25.4	19.0	14.1	50.0	2.8	5.6	14.1	2.8
非貧困世帯	975	24.6	4.0	16.7	23.1	9.2	5.6	19.1	14.3	4.8	28.9	0.8	5.7	27.1	3.2

### 【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯、中学生の貧困世帯で「子どもの教育費が心配である」の割合が高くなっています。また、小学生の貧困世帯で「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」「子育てを手伝ってくれる人が身近にいない」の割合が、中学生の貧困世帯で「子どもの発育や体調が心配である」「子どもが学校に行くことを嫌がる」の割合が高くなっています。

単位：％

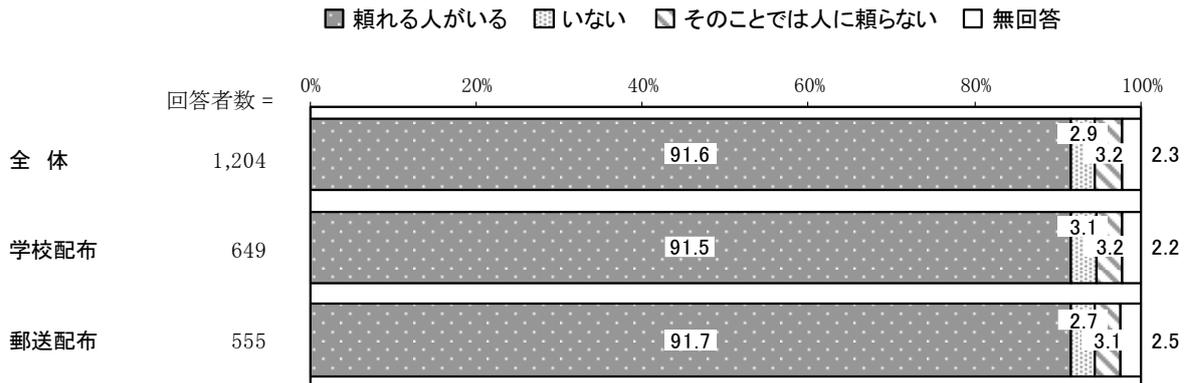
区分	回答者数(件)	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子育てについて相談できる人がいない	仕事と子育ての両立が難しい	自分の時間が持てない	子育てのストレスをうまく解消できない	子育てを手伝ってくれる人が身近にいない	子どもが勉強をしない	子どもの発育や体調が心配である	子どもが学校に行くことを嫌がる	子どもの教育費が心配である	子どもに十分な食事を与えることができない	その他	特に悩みはない	無回答
小学生(5年生)	318	24.8	5.7	17.6	23.3	12.3	7.9	20.4	12.6	8.2	26.7	1.3	5.7	28.6	4.7
貧困世帯	39	46.2	10.3	25.6	38.5	20.5	17.9	35.9	15.4	7.7	53.8	—	7.7	12.8	2.6
非貧困世帯	257	21.0	5.1	16.7	21.8	10.9	6.2	17.9	12.1	7.8	23.3	1.2	5.4	31.5	3.5
中学生(2年生)	297	21.5	4.4	15.5	21.9	8.1	6.4	32.0	14.1	6.4	36.0	1.3	6.1	22.2	3.4
貧困世帯	35	31.4	5.7	22.9	37.1	17.1	8.6	31.4	25.7	25.7	54.3	5.7	2.9	8.6	5.7
非貧困世帯	238	21.0	4.6	15.1	20.6	6.7	5.9	32.4	13.4	3.8	32.4	0.4	6.7	24.4	2.9
0～18歳未満	555	27.6	2.9	19.1	25.2	10.6	5.4	13.2	16.2	4.9	31.7	1.3	5.4	24.5	3.4
貧困世帯	65	27.7	3.1	26.2	29.2	16.9	9.2	15.4	18.5	12.3	44.6	3.1	6.2	16.9	1.5
非貧困世帯	452	27.9	2.9	17.9	25.0	9.5	5.1	13.3	16.2	4.0	30.5	0.9	5.8	25.7	3.3

【保護者】問 24 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。  
 (a、bそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)  
 また、「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。  
 (①～⑧のあてはまるものすべてに○)

a) 子育てに関する相談

①頼れる人の有無

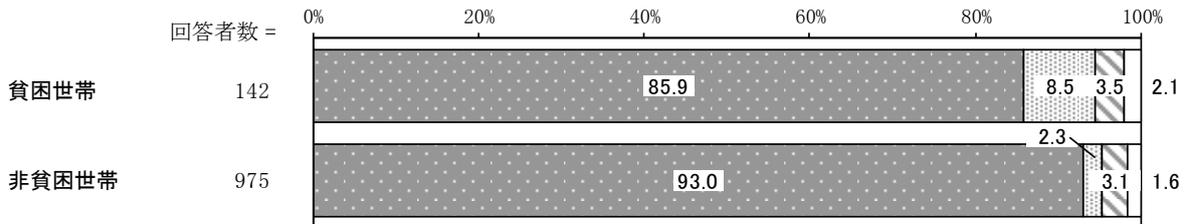
全体では、「頼れる人がいる」の割合が91.6%と最も高くなっています。  
 学校配布と郵送配布を比較すると、大きな差異はみられません。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

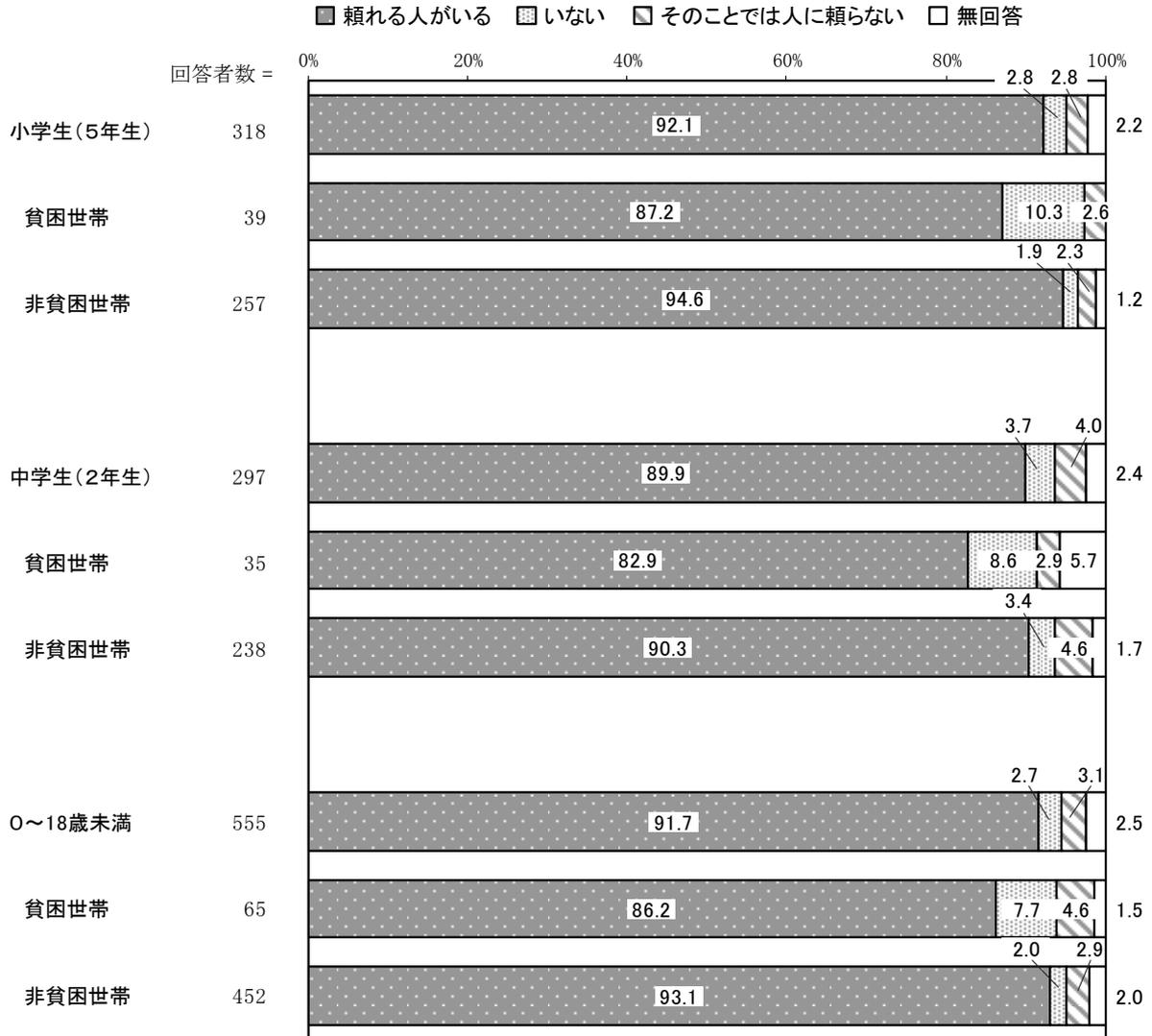
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「いない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「頼れる人がいる」の割合が高くなっています。



## 【子どもの学年別】

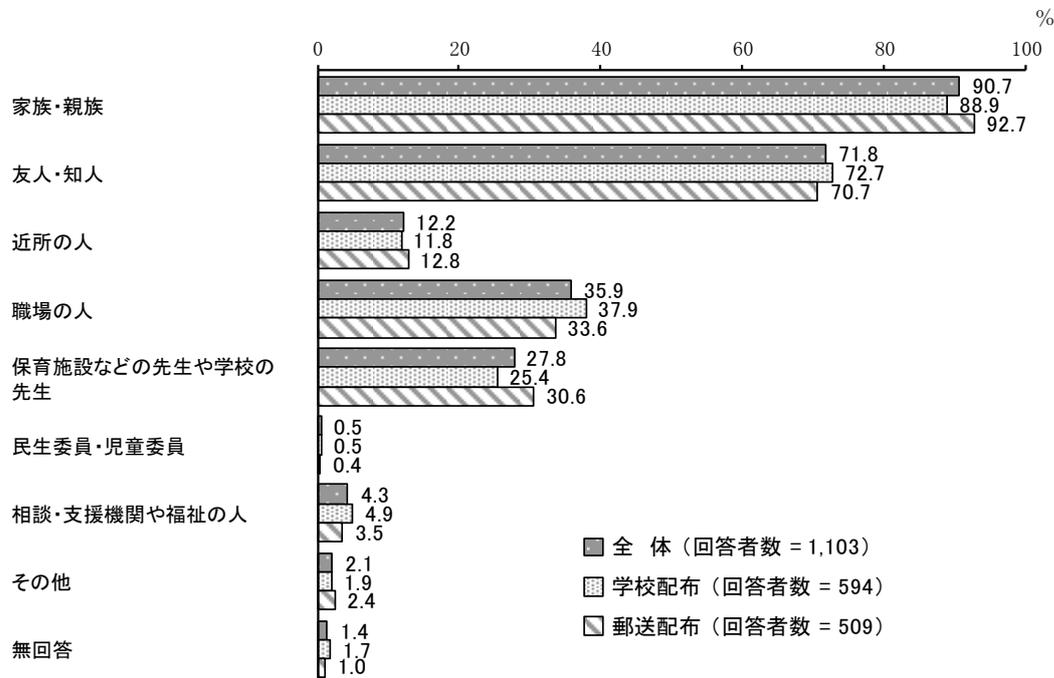
子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生、0～18歳未満の非貧困世帯で「頼れる人がいる」の割合が高くなっています。また、小学生の貧困世帯で「いない」の割合が高くなっています。



## ②頼れる人の内訳

「家族・親族」の割合が90.7%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が71.8%、「職場の人」の割合が35.9%となっています。

学校配布と郵送配布を比較すると、学校配布に比べ、郵送配布で「保育施設などの先生や学校の先生」の割合が高くなっています。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

### 【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「保育施設などの先生や学校の先生」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「家族・親族」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	学校・ 保育施設などの先生や 学校の先生	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
貧困世帯	122	80.3	69.7	11.5	35.2	32.8	0.8	5.7	4.1	1.6
非貧困世帯	907	92.3	71.8	12.1	36.1	27.3	0.4	4.2	1.7	1.3

### 【子どもの学年別】

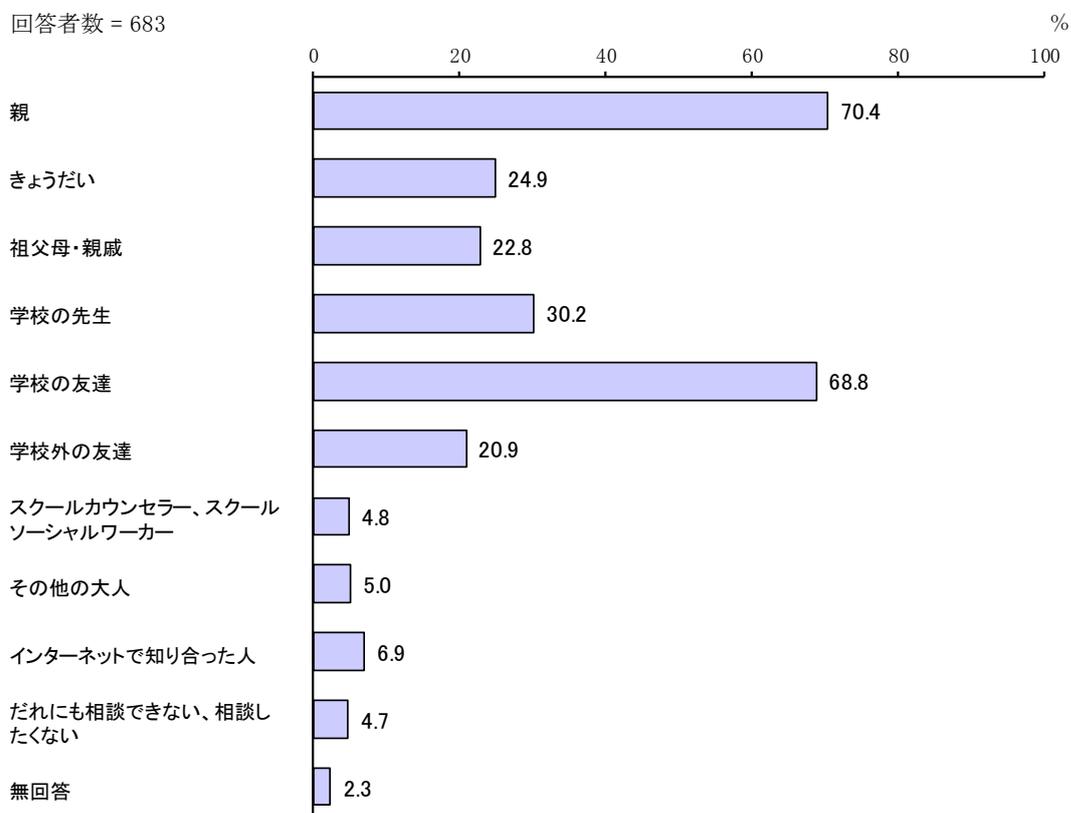
子どもの学年別で見ると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「家族・親族」の割合が低くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「友人・知人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	学校・ 保育施設などの先生や 学校の先生	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
小学生(5年生)	293	91.1	74.1	10.9	38.6	23.2	0.3	6.1	1.7	0.7
貧困世帯	34	82.4	70.6	11.8	35.3	32.4	—	5.9	8.8	—
非貧困世帯	243	92.6	75.3	11.1	39.9	21.8	0.4	6.2	0.4	0.8
中学生(2年生)	267	86.1	70.8	11.6	36.3	25.8	0.7	3.7	1.1	2.6
貧困世帯	29	72.4	65.5	13.8	34.5	27.6	—	3.4	3.4	3.4
非貧困世帯	215	88.4	69.8	10.7	37.7	27.4	0.9	4.2	0.5	2.8
0～18歳未満	509	92.7	70.7	12.8	33.6	30.6	0.4	3.5	2.4	1.0
貧困世帯	56	82.1	73.2	8.9	35.7	37.5	1.8	7.1	1.8	1.8
非貧困世帯	421	94.1	70.1	12.8	32.3	29.2	0.2	3.3	2.4	1.0

【児童生徒】問 22 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できる人はだれですか。  
(1～9については、あてはまるものすべてに○)

全体では、「親」の割合が70.4%と最も高く、次いで「学校の友達」の割合が68.8%、「学校の先生」の割合が30.2%となっています。



### 【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「祖父母・親戚」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「学校の先生」「学校外の友達」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	親	きょうだい	祖父母・親戚	学校の先生	学校の友達	学校外の友達	スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	その他の大人	インターネットで 知り合った人	だれにも相談できない、 相談したくない	無回答
貧困世帯	75	66.7	26.7	29.3	25.3	66.7	9.3	5.3	2.7	6.7	6.7	2.7
非貧困世帯	501	71.1	23.8	22.2	31.3	68.9	22.8	4.4	5.8	6.2	4.6	2.6

### 【学校配付分の子どもの区分別】

子どもの区分別でみると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「親」の割合が低くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「学校の先生」の割合が高くなっています。

単位：％

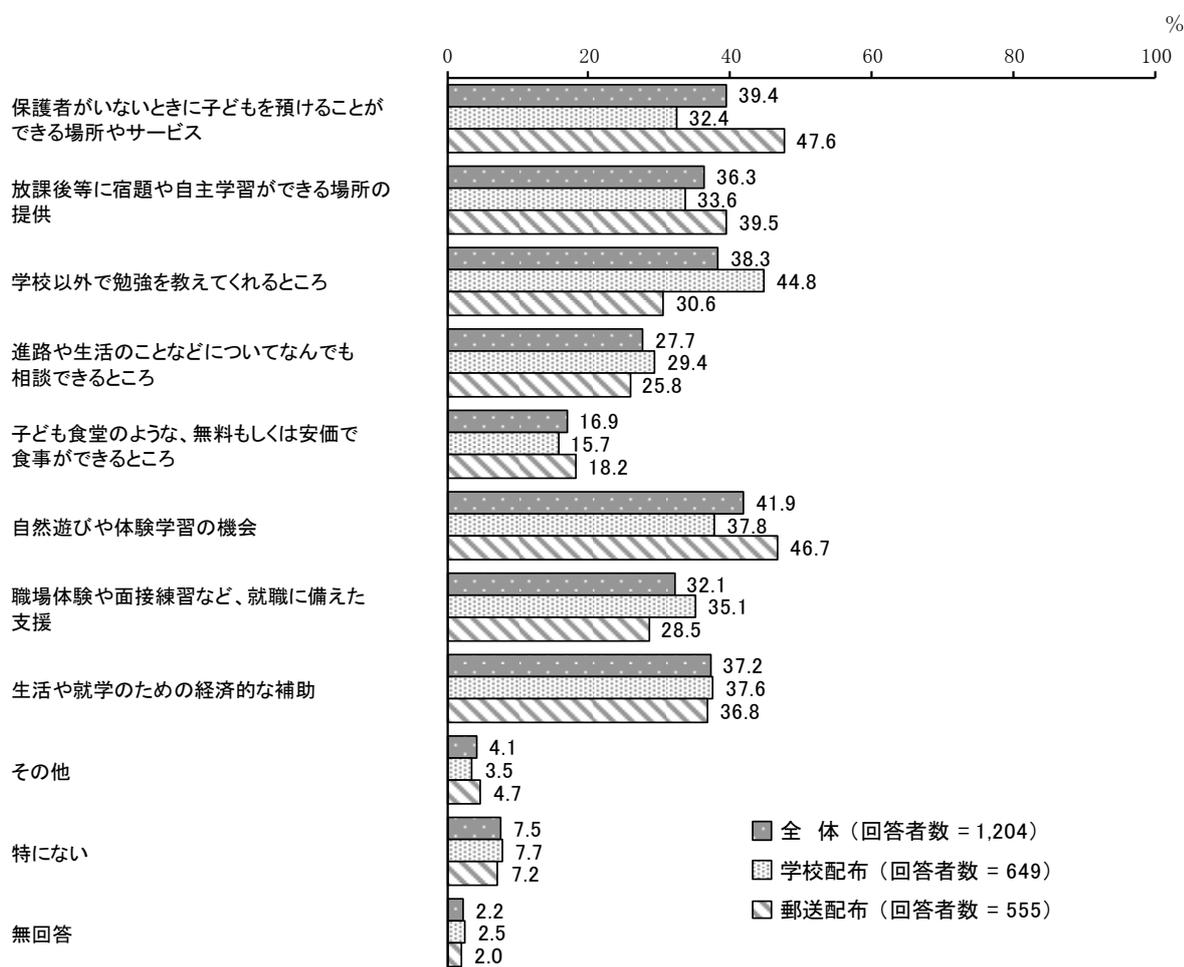
区分	回答者数 (件)	親	きょうだい	祖父母・親戚	学校の先生	学校の友達	学校外の友達	スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	その他の大人	インターネットで 知り合った人	だれにも相談できない、 相談したくない	無回答
小学生(5年生)	353	75.9	25.8	27.2	32.0	70.5	20.7	6.8	5.7	4.8	3.4	2.0
貧困世帯	39	76.9	28.2	30.8	20.5	71.8	7.7	2.6	—	2.6	5.1	—
非貧困世帯	257	76.3	23.7	26.1	34.6	70.4	22.2	6.6	7.4	4.7	2.7	2.3
中学生(2年生)	322	64.9	23.6	18.0	28.9	67.1	20.8	2.8	4.0	9.3	6.2	2.5
貧困世帯	35	54.3	22.9	28.6	31.4	60.0	11.4	8.6	5.7	11.4	8.6	5.7
非貧困世帯	238	66.4	23.9	17.6	28.6	67.2	22.7	2.1	4.2	8.0	6.7	2.5

## 4 今後の支援

【保護者】問 26 今後、子どものためにどのような支援が重要だと思いますか。  
 (1～9までについては、あてはまるもの5つまでに○)

全体では、「自然遊びや体験学習の機会」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス」の割合が 39.4%、「学校以外で勉強を教えてくれるところ」の割合が 38.3%となっています。

学校配布と郵送配布を比較すると、郵送配布に比べ、学校配布で「学校以外で勉強を教えてくれるところ」「職場体験や面接練習など、就職に備えた支援」の割合が高くなっています。また、学校配布に比べ、郵送配布で「保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス」「放課後等に宿題や自主学習ができる場所の提供」「自然遊びや体験学習の機会」の割合が高くなっています。



※学校配布は小学5年生保護者及び中学2年生保護者が対象、郵送配布は0～18歳未満の子どもの保護者が対象となっています。

### 【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「子ども食堂のような、無料もしくは安価で食事ができる場所」「生活や就学のための経済的な補助」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス」「放課後等に宿題や自主学習ができる場所の提供」「進路や生活のことなどについてなんでも相談できる場所」「自然遊びや体験学習の機会」「職場体験や面接練習など、就職に備えた支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス	放課後等に宿題や自主学習ができる場所の提供	学校以外で勉強を教えてくれるところ	進路や生活のことなどについてなんでも相談できる場所	安価で食事ができる場所	子ども食堂のような、無料もしくは安価で食事ができる場所	自然遊びや体験学習の機会	職場体験や面接練習など、就職に備えた支援	生活や就学のための経済的な補助	その他	特になし	無回答
貧困世帯	142	33.8	27.5	38.7	22.5	23.2	25.4	24.6	57.7	4.2	7.7	2.8	
非貧困世帯	975	39.5	37.4	38.8	28.2	16.2	44.3	33.5	34.7	4.1	7.8	1.6	

### 【子どもの学年別】

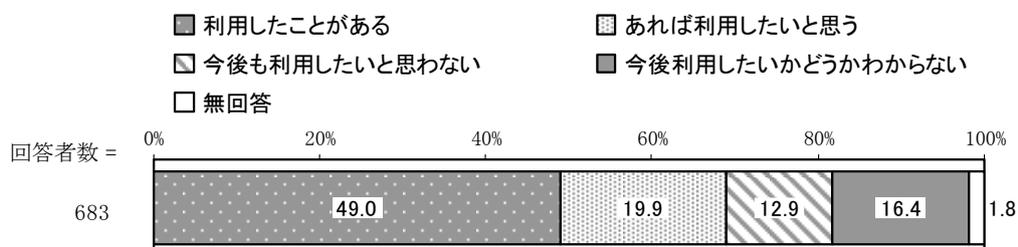
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス」「生活や就学のための経済的な補助」の割合が高くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「自然遊びや体験学習の機会」の割合が、中学生の非貧困世帯で「職場体験や面接練習など、就職に備えた支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス	放課後等に宿題や自主学習ができる場所の提供	学校以外で勉強を教えてくれるところ	進路や生活のことなどについてなんでも相談できる場所	安価で食事ができる場所	子ども食堂のような、無料もしくは安価で食事ができる場所	自然遊びや体験学習の機会	職場体験や面接練習など、就職に備えた支援	生活や就学のための経済的な補助	その他	特になし	無回答
小学生(5年生)	318	38.7	37.4	44.7	26.4	16.4	46.2	29.2	32.4	5.3	7.5	1.9	
貧困世帯	39	43.6	38.5	48.7	20.5	23.1	25.6	25.6	59.0	—	7.7	—	
非貧困世帯	257	37.7	37.0	44.7	27.6	16.0	48.2	29.6	28.4	6.2	7.8	1.9	
中学生(2年生)	297	24.9	29.3	44.8	33.0	14.5	29.0	40.4	42.8	1.3	8.4	3.0	
貧困世帯	35	14.3	25.7	42.9	28.6	20.0	14.3	31.4	54.3	—	11.4	5.7	
非貧困世帯	238	25.2	29.4	45.8	32.8	14.3	31.1	43.3	41.2	1.7	8.0	2.1	
0～18歳未満	555	47.6	39.5	30.6	25.8	18.2	46.7	28.5	36.8	4.7	7.2	2.0	
貧困世帯	65	40.0	23.1	30.8	21.5	26.2	32.3	18.5	58.5	9.2	6.2	3.1	
非貧困世帯	452	47.6	41.6	30.8	26.1	16.8	49.3	30.1	34.3	4.2	8.0	1.3	

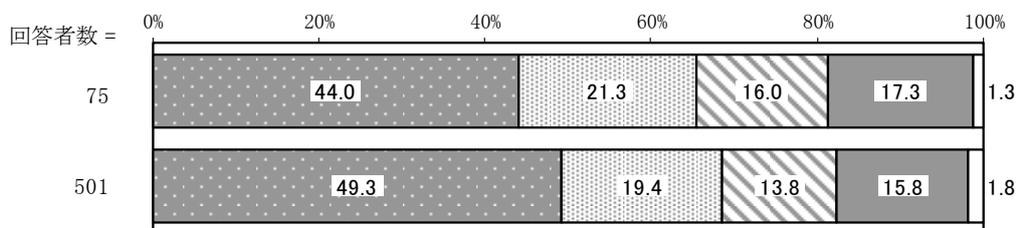
**【児童生徒】問 23** あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。  
 また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。  
 （a～d それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○）

a) (自分や友人の家以外で) 平日の放課後や休日を過ごすことができる場所 (児童館、図書館など)  
 全体では、「利用したことがある」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「あれば利用したいと思う」の割合が 19.9%、「今後利用したいかわからない」の割合が 16.4%となっています。



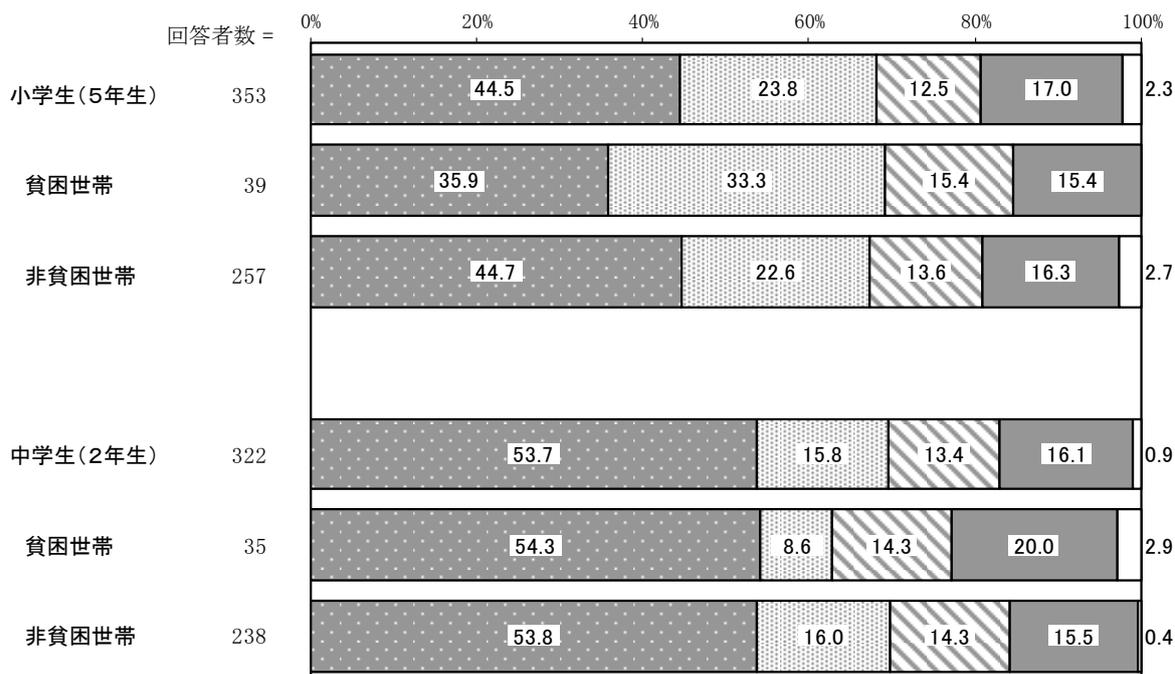
**【貧困線別】**

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっています。



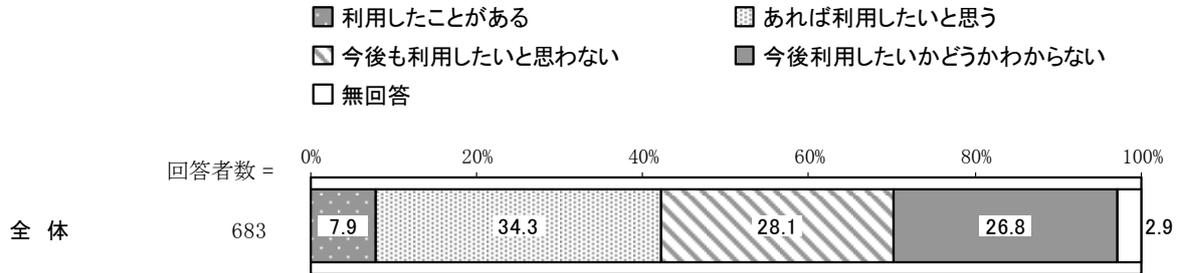
**【子どもの学年別】**

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



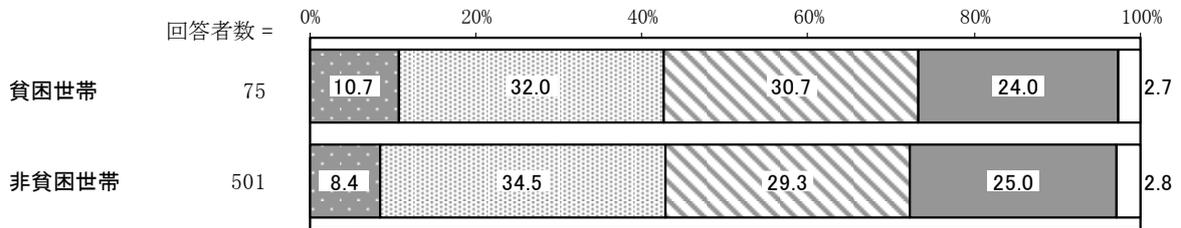
b) (自分や友人の家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)

全体では、「あれば利用したいと思う」の割合が 34.3%と最も高く、次いで「今後も利用したいと思わない」の割合が 28.1%、「今後利用したいかどうか分からない」の割合が 26.8%となっています。



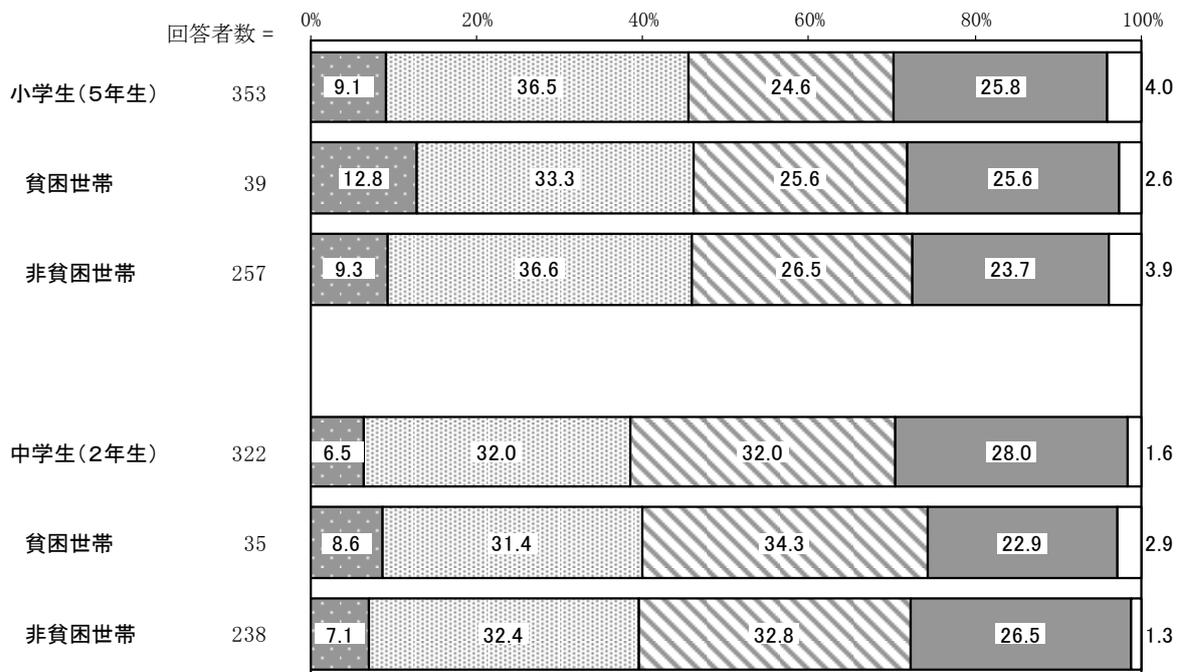
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



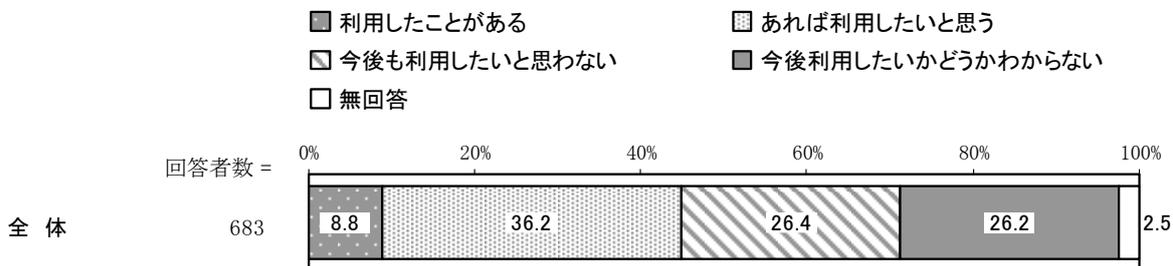
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生の貧困世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



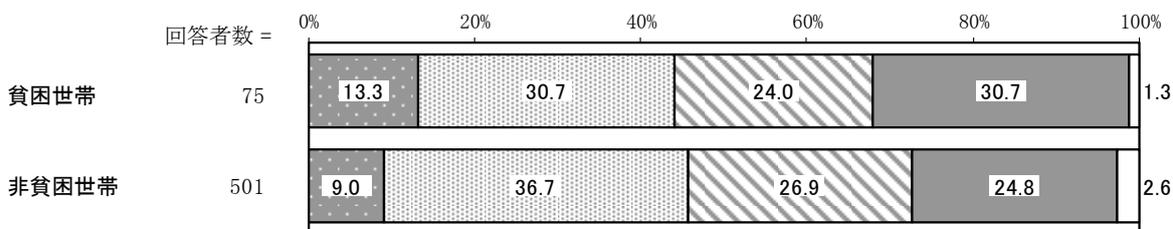
c) (学校以外で) 勉強を無料でみてる場所

全体では、「あれば利用したいと思う」の割合が 36.2%と最も高く、次いで「今後も利用したいと思わない」の割合が 26.4%、「今後利用したいかどうか分からない」の割合が 26.2%となっています。



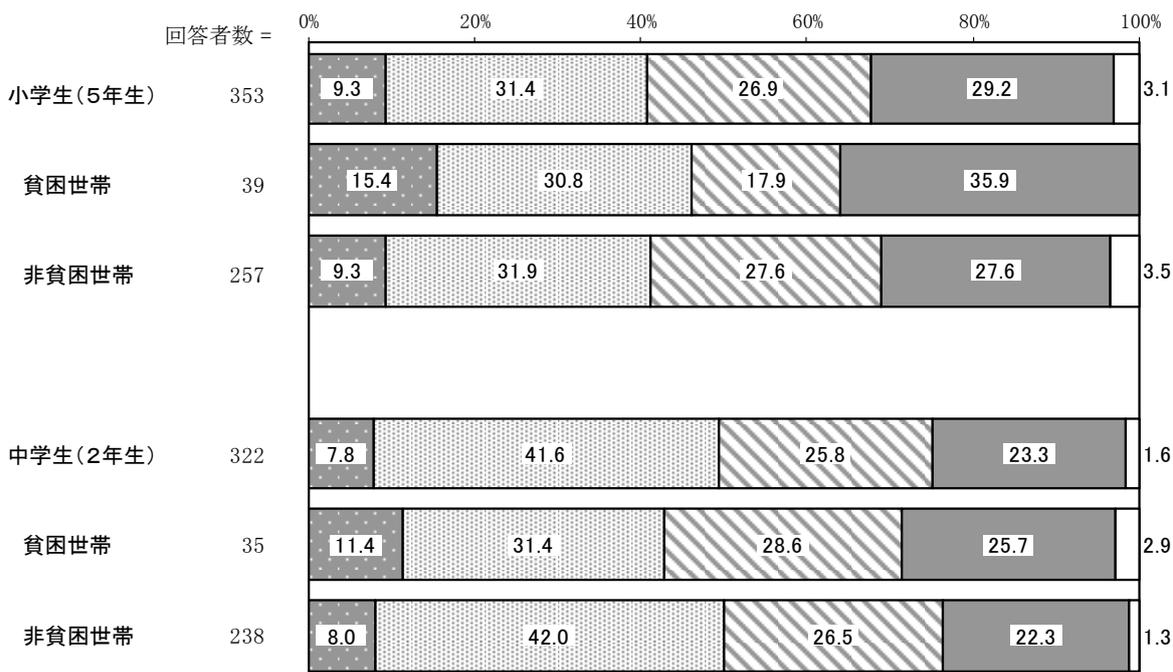
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



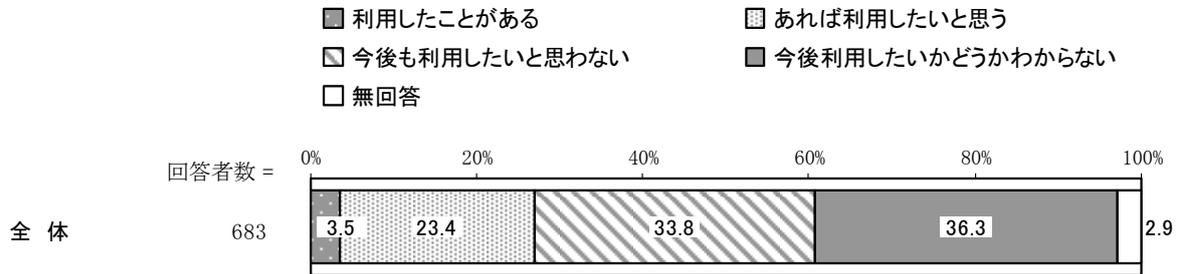
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっています。また、中学生の非貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



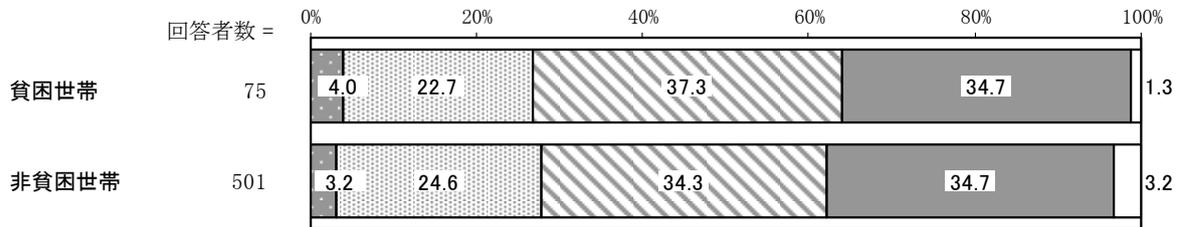
d) (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やインターネットの相談を含む。)

全体では、「今後利用したいかどうか分からない」の割合が 36.3%と最も高く、次いで「今後も利用したいと思わない」の割合が 33.8%、「あれば利用したいと思う」の割合が 23.4%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生の貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。

